

(中間評価)

国際的研究者を育て得るメンター研究者養成

(実施期間：平成 22～26 年度)

実施機関：東海大学（総括責任者：高野 二郎）

プロジェクトの概要

先端分野における国際的研究を行う能力に加え、自らをロールモデルとした後進の研究者を育成するメンターとなりうる人材養成をする。テニュアトラックの期間は創造科学技術研究機構に属し、理想的な環境の中で自己能力の発展に邁進し、テニュア取得後は、学部・研究科に所属しつつ、大学奨励教員として本学に特徴ある研究を通じて次世代育成のための環境作りに貢献する。先ず医学系において、緊急性高く、私学の特長でもある臨床研究分野の国際的研究者の養成機構としてシステムを導入し、3年目から理工系学部へと広げ、その後全学的システム改革へと広げる。私立大学における若手研究者育成のモデルとする。

(1) 評価結果

総合評価	国際公募・選考・業績評価	人事養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績)	人事養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント)	今後の進め方における取組
A	a	a	a	b

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

機関の教育研究分野を俯瞰し、新たな研究分野を切り拓き次世代のプロジェクトを担う人材の育成を目指して、テニュアトラック制（以下「TT制」という。）の導入を図るという明確な目標をもって制度設計を行っている。また、研究活動のマネジメントに重点を置くとともに、私学として重要な教育能力の構築などのバランスを考えた育成システムを構築していることは評価できる。

優れた若手研究者を採用しており、医学基礎系から TT 制の導入を開始し、3年度目から理工学部へも展開するとともに、若手研究者間の連携が緊密で、異分野の知識融合を活かす活動につながっている。さらに、海外の大学での研修内容の詳細な分析を実施し、研修カリキュラムの工夫を行うとともに、その研修結果を全学に活かそうとする動きなどの特徴ある取組も評価できる。

私学の総合大学として若手研究者の育成システムのモデルを示そうとの意欲も高いが、TT 制の位置づけをより明確にし、具体性をもった制度改革が学長のリーダーシップの下で着実に進められることを期待する。

- **国際公募・選考・業績評価**：国際公募及び選考体制を構築しており、優秀なテニュアトラック若手研究者（以下「TT 若手」という。）を確保していることは評価できる。機関が求める人物像を明確にし、テニュア獲得後のキャリアパスを明確にした公募要領の作成などの工夫が期待される。
- **制度設計に基づく実施内容・実績**：海外を含む3～4名のメンターを配置し、機関が求める教員資質を明確にし、それを実現するマルチメンター制を採っている。また、分野が異なるTT 若手同士の連携を活かす体制をとり、研究力の多面的育成につなげるとともに、教育力の強化にも配慮していることは評価できる。
- **制度設計に対するマネジメント**：学長の主導の下、機関でのTT 制の確立にPDCAサイクルを活用する体制はできている。今後は、他部局へのTT 制の展開の具体化を期待する。
- **今後の進め方における取組**：TT 制の全学的な制度設計が検討されていることは評価できる。今後は、全学に展開するための制度設計を早急に具体化し、全学展開につなげることを期待する。さらに、全学展開を図って学部横断的な教育・研究を活性化すること、また、TT 制に基づく人材養成システムの私学のロールモデルの提示につながることを期待する。